令和７年度 自己評価報告書

学校法人富士学院
富士学院幼稚園

1. 自己評価の実施日
令和８年1月30日

2. 本園の教育目標
① 明るく思いやりのある子を育てる
② 最後まで頑張る子を育てる
③ 元気にのびのび遊ぶ子を育てる

3. 年間指導計画

年長	・生活や遊びの中で、感じたことや考えを言葉で互いに伝え合う ・いろいろな経験を通じて、自主性及び協調性を身につける ・目的に向かって自ら考え、友達と協力し、目標を達成できるようにする
年中	・保育者や友達の話をよく聞き、自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝える ・遊びや生活を通じて、積極的に活動に関わり、園生活を十分に楽しむ
年少	・基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でできるようにする ・自分の気持ちを相手に言葉で伝えられるようになる ・友達との関り方や集団生活を学び、活動する楽しさを知る
満３歳児	・園生活に慣れ、身の回りのことを自分でやってみようとする ・遊びを通じて、興味関心の幅を広げる

4. 本年度重点的に取り組む目標・計画
① 園での遊びや生活を通じて、興味関心の幅を広げ、様々なことを楽しむ。
② 食育に力を入れ、年間を通してクッキングを実施する。
③ 外遊びの時間を多く設け、体をたくさん動かし、体力の向上を図る。
④ 保育者や友達との関わりを通じて、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えるようにする。

5. 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	遊びや生活を通じて、興味関心の幅を広げ、園生活を楽しむ	A	子どもたちのチャレンジする姿勢を大切にすることができた。また「なぜ？」という気持ちを大切にし、興味関心の幅を広げることができた。
2	食育に力を入れ、年間を通してクッキングを実施できたか	A	今年度はランチバイキング、お芋ご飯、味噌汁、ピザ、芋煮、焼き芋、おでん等のクッキングを行った。また、夏には園庭菜園（なす、トマト、キュウリ等）も多く行い、自ら育てた野菜を食べることができた。
3	体をたくさん動かす機会を提供できていたか	A	体操教室、ダンス教室、サッカー教室を行い、基礎体力及び柔軟性、体幹、バランス感覚の向上を図った。また、通常保育の中において外遊びの時間やホールでのボルダリングの時間を確保し、体を動かす時間を作った。
4	保育者や友達との関わりを通じて、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えるようにする。	A⁻	「〇〇はダメ！」「〇〇しなさい！」という一方的な指示は控え、子ども自身に考えさせる問いかけを増やし、自分の気持ちや相手の気持ちについて考える機会を増やすことができた。ただ、低年齢児に対しては、うまくこちらの意図が伝わらないことも多くあり、検討していく必要があると感じた。

（A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった）

6. 総合的な評価

評価	理由
A⁻	・総合的に見れば、保育者の意識も高い水準で推移することができた ・報告、連絡、相談についてはより徹底できると良いと感じた。 ・保育者だけではなく、外部の方と多く接する機会があり、コミュニケーション能力を養うことができた ・年間を通して、園外保育、クッキング、その他イベントを積極的に取り入れることができ、多くの経験を積むことができた ・保育者の意図がうまく伝わらないこともあり、意思疎通をする上での工夫が必要であるということが次年度の課題であると感じた ・その他の事項としては、他の園を訪問したり、児童発達支援等の関連機関と情報交換を積極的に行うことができ、知識の幅が広がった

7. 令和８年度に向けて取り組むべき課題

・近年「主体性」というキーワードをよく耳にするが、今一度子どもファーストな保育について探求する
・報告、連絡、相談については、今以上に徹底する必要がある
・４月には新卒の職員を採用し、更に平均年齢が若くなるので、新人教育に力を入れる
・社会情勢や保育ニーズについてアンテナを張り、園の在り方について常に考え続ける
・どんなに保育の内容が良くても、認知してもらわなければ意味がないので、広報活動について検討する

令和７年度学校関係者評価報告書

学校法人富士学院
富士学院幼稚園

１. 学校関係者評価委員会開催日　　令和８年３月５日（木）

２. 会場　　富士学院幼稚園保育室（にじ組）

３. 出席者　地域代表２名、保護者代表２名、事務局３名

４. 自己評価に対する各委員の評価

・年間指導計画に「自主性」「協調性」というキーワードがあるが、個人差がある場合の対応はどのようにされているか？
→子ども一人一人の個性や性格、発達の成熟度によって個人差が大きい年代であるので、担任の他にフリー職員、必要に応じて加配職員を配置し、保育者の目が全体に行き届くように努めている。

・上の子が卒園児で現在小学生だが、以前に比べて保護者参加型のイベントが減少しているように感じる。何か理由はあるか？
→昨今の状況では、共働き世帯が増加しており、当園でも新2号認定時が多く在籍している。それらを考慮し、保護者の方の負担を最小限にするため、保護者参加型のイベントは少なめに設定している。ただ、子どもともっと関わりを持ちたいという意見もよくわかるので、ただの参観ではなく、保護者も参加できるイベントを増やせるか、次年度以降検討して生きたい。

・現在認定こども園の申請手続きをしていたり、預かり保育の時間が長くなったりすることで、先生たちの負担が大きくならないか心配であるが、どのように対応をする予定か？
→時代の流れやニーズに合わせて幼稚園も柔軟に変化していく必要があるが、何かを変える際はどうしても労力が必要となる。それらに対応するために、シフト制を設け、保育者の勤務時間を調整したり、保育者を増員し、既存の職員の負担が大きくならないようにする。現時点で4月1日採用が3名確定しているが、採用活動は継続する予定である。

・幼少期に多くの国語力を身についてることが大切だと考えているが、年間指導計画の中で「自分の気持ちや考えを言葉で伝えられるようにする」というような項目があり、安心した。引き続きこのような保育を実施してほしい。